



編集・発行 山見妙勢能  
山見妙勢能報部  
〒563-0132  
大阪府豊能郡野間中  
電話 072-739-0329  
FAX 072-739-2883

### 御会式を迎える

――日慧

先月九月十二日、宗祖日蓮大聖人竜口法難の報恩法要を迎えました。

一月遅れのお話しとなりますが、実は当時の九月は新暦の十月くらいの季節となりますので、月遅れでお話しを続けます。

日蓮聖人はご生涯、生命に関わる目に何度も遭われましたが、中でも最大の法難が竜口法難でした。文永八年(一二二一)九月十二日。他宗僧侶の讒言(ざんげん)によって幕府の役人に捕縛された聖人は、鎌倉小路を引き回され、龍ノ口の刑場跡にて斬首されるどころでした。ところがいざその時に、

江ノ島の方角から光り物が飛来し、首切り役人たちは目がくらんで、刀を放り出す始末。斬首を一等減じて佐渡へ流罪となりました。

その時、弟子たち五人もとらえられ、鎌倉にて土牢に押し込められました。

聖人は鎌倉から佐渡へ向かうまで、一時相模国の依智に留められその時に、囚われた弟子たちに書いた手紙が現存します。自身のことは省みず弟子へのいたわりで満ちた文は、受け取った弟子にとつてどれだけ励みになったことでしょう。

さて聖人は十月(新暦十一月)十日佐渡へ向かって出発し、越後の寺泊に二十日に到着します。この道中は聖人にはとても厳しい

ものでした。罪人として役人に連れられての道中です。それだけでも心にかかる負担は大きいものですが、さらに辛いことには鎌倉を離れるにつれて、聖人を理不尽にも憎しみ、命をも奪おうとする者たちが増えていくということでした。

道中、風の音さえも刺客の立てる声ではないかと、心休まる間もないとご自身述べておいでになるほどです。また寺泊についてやれやれというわけにはいきません。その後厳寒の佐渡に流されていくわけです。ところで何故そんな大変な目に遭わなくてはならなかったのか。それは御仏の唯一の、そして真の救済の教えである法華経を説き広め、全てのの人に幸福を得て欲しいと願ったからです。今月十三日は聖人のご命日。御会式の日です。

### 《法華経に学ぶ現代》

諸佛世尊は

衆生をして

佛智見を

開かしめ

清浄なることを

得せしめんと

欲するが故に

世に出現したもう

『方便品第二』

宇宙にいつばい仏さま

みんな名前が違うけど

願いはひとつただ一つ

生きとし生けるものたちに

いのちの輝き気づかしめ

清き心を取り戻し

生きてる今に喜びを

知らしめんとて世に出づる

### 【10月の主な行事】

★写経会 13日(日)11時  
★月例祈願法要 15日(火)13時  
★星嶺演奏会 20日(日)11時  
★星嶺茶論 20日(日)13時

お題目の太鼓練習です。  
★鷗様月例祭 22日(火)15時  
☆お風入れ宝物館公開展示 22日(火)〜24日(木)

◎年に一度の宝物公開展示

【11月の行事予定】  
☆七五三詣祈禱 1日〜30日  
◎お子様の成長を祈って、七五三詣祈禱を11月中執り行っております。

※祈禱札と記念品を授与  
御祈禱料 三五〇〇円  
☆宗祖日蓮聖人御会式法要 9日(土)〜10日(日)

※お会式様とおはぎの供養  
★写経会 10日(日)11時  
★月例祈願法要 15日(金)13時  
★星嶺演奏会 17日(日)11時

プロの奏者が生演奏  
★星嶺茶論 17日(日)13時  
お題目の太鼓練習です。  
★鷗様月例祭 22日(金)15時

※火伏守札を授与  
《交通のご案内》  
◆ケーブル&リフト毎日運行中

# 仏さまはいつもソバにいる

小林 謙照

さあ、十月は待ちに待った新そばの季節ですね！我が家は親子でソバにハマり息子に至ってはそばつゆに浸けずにそのまま味わうソバ通つぷり。ウンチク好きにならないことを祈ります（笑）ちなみに、夏に収穫されたものを夏新。秋に収穫されたものを秋新、と呼ぶそうです（→ウンチク）

まだ続きます。実は蕎麦と仏教は切っても切れない、縁が深い食べ物です。

天台宗の修行で7年間をかけあわせて千日間、お経を唱えながらひたすら歩く荒行「千日回峰行」というものがあります。行の最中は『五穀断ち』といって、穀物を穢れにまみれた俗世の物とし、穀物を食わずに身を清浄にするそうです。蕎麦は五穀には入らないた

め、修行者の大切な栄養源となつているとか。

また、麵状の蕎麦、いわゆる『そば切り』は福岡県にある臨済宗の承天寺の僧聖一（しょういち）国師が挽き臼による製粉技術を日本に持ち込み、中国の麵文化（ラーメン・うどん・そば）を日本に伝えたそうです。ちなみに【そば屋】の発祥は大阪城築城のときにできた『砂場』と言われています。

さらに、江戸時代には、世田谷にある称住院の寺中道光庵の庵主がつくる蕎麦が評判となり、そば切り寺と呼ばれるようになりまし。魚類の出汁を使わず、精進汁（干し椎茸、昆布）に辛味大根の絞り汁を添えて出していたそうです。そば屋の屋号に「○○庵」というのが多いのは、ここからきているとか。というわけで、仏教修行者のソバにはいつも蕎麦が

米国の有名な実業家は、毎日、自分が明日死ぬなら今何をすべきかを考え働いていたという。彼は仏教徒としても知られている。

仏教において「よく死ぬ」事とは、法華經に生きるという信念を貫き「よく生きる」という事だといえる。

「先ず臨終の事を習う

☆☆☆☆星のたより☆☆☆☆

て後に他事を習つべし」とは日蓮聖人のお言葉だ。聖人が仏教を志された理由の一つが死とどう向き合うかという問いであったことがうかがえる御遺文の一節である。

十月十三日は聖人のご命日。その偉大な生き様に少しでも近づきたいと願う。

U.K

ある、という長い長いウンチクにお付き合いたいいただき誠にありがとうございます。さて、秋の夜長、日蓮聖人門家のみなさまは、きつと寸暇を惜しんで仏教の勉強をされていること存じますが、これからの寒い季節ちよつと休憩がてら、あたたかい蕎麦湯でも飲みながら、仏教と蕎麦のウンチクを思い出していただけたら幸いです。

俳壇 (みのり)

雷かみなり吹ゆる今日を名残と大あばれ  
再会に肩を抱き合ふ菊の園  
柿熟れて友呼ぶ鳥の声高し  
峠越え夕日ゆづり拝む幸得たり  
工事場の呼び交ふ声や空澄みて

### 法華經茶話

良医病子諭(一)

続いて「良医病子諭」についてみていきましょう。

どんな難病も治す名医がいました。その一方彼は多くの子を持つ父親でもありました。ある日、父が旅行に行っている時に、子供達が中毒を発症し、病み苦しむという不幸が起きます。慌てて邸宅に戻ると、子供達は苦しみながらも喜んで父を迎え「早くこの苦しみを治してください」と懇願します。父は早速、子供達が飲みたくなくなるように見た目も綺麗で良い香りのする薬を作つて、その薬を子供達に飲むように勧めました。すると症状が軽い子供達はずぐに薬を飲んで回復しましたが、症状の重い子供達は毒が深く身体に入り込んで正気を失っており、薬の色や香りが気に入らないと、薬を飲むうとしません。その姿をみて、父は困り果ててしまいました。